日本三大民間薬（No.2）

ゲンノショウコ

学名：*Geranium thunbergii* Sieb.et Zucc.　科名：フウロソウ科

江戸時代の初め頃、人々が下痢に悩まされていた時に使われ始めたのが、このゲンノショウコです。薬効が速やかに現れ下痢止めとして効果絶大、そして副作用も少なくお薬の代わりになることから、「現に良く効く証拠」に名前が由来しています。また、飲み過ぎても便秘を引き起こしたりせず、優れた整腸生薬であることから、「医者要らず、たちまち草」などの異名をもちます。

日本では北海道の草地や本州～九州の日当たりの良い山野や道端に見られます。高さ30～50cmになる多年草で、葉は3～5個に深く切れ込み、夏から秋にかけて2～3個の紫紅色（主に西日本）～白色（主に東日本）の花をつけます。夏の土用の丑の日ごろになると、ゲンノショウコの地上部にタンニンという有効成分がもっとも多く含まれ、全国各地でゲンノショウコの花が満開になります。花が終わると果実が種子を放出して、果皮が上方に巻きかえり、その姿がいかにも神輿の屋根に似ていることから、ミコシグサ（神輿草）の別名ができました。

生薬名	ゲンノショウコ　局方生薬
薬用部位	全草（花、葉、茎、根）
薬効	健胃・整腸作用など
用途	下痢止め、食あたり、便秘、慢性的な胃腸疾患、 高血圧予防、口内炎、冷え症、生理痛などに用いられる。

城西国際大学薬学部　5年生　荒井 美幸

悪魔を追い出す薬？

トウゴマ

学名：*Ricinus communis* L.　科名：トウダイグサ科

植物から脂肪を抽出して精製される植物油は、食用油や燃料用の油など、様々な用途で日々用いられています。その中で、ヒマシ油という植物油をご存知でしょうか？ヒマシ油は、トウゴマの種子から採取される脂肪油で、医薬品として日本薬局方に収載されています。

古代エジプト医学について記された最古の文献エーベルス・パピルスにヒマシ油の記載があります。当時、病気の原因は悪魔によるものとされていたことから、体の中に入り込んだ悪魔を追い出す為の強力な瀉下剤として用いられていたそうです。

ヒマシ油に含まれるトリグリセリド（中性脂肪）は、消化管内でリパーゼと呼ばれる酵素の働きにより、「リシノール酸」と「グリセリン」に加水分解されます。この「リシノール酸」が消化管を刺激することで、瀉下作用を発揮するため、便秘や食中毒などに用いられます。

また、トウゴマの種子には「リシン」や「リシニン」などの有毒成分が含まれており、摂取すると、嘔吐や血圧降下、呼吸中枢の麻痺を引き起こします。誤って口に含まないようにしましょう。

生薬名	ヒマシ油 局方脂肪油
薬用部位	種子
薬効	瀉下作用、皮膚潤滑作用
用途	峻下剤、外用として皮膚緩和剤 工業用、化粧品（ポマード）

城西国際大学薬学部　5年生　河野 愛

ノコギリソウ

学名：*Achillea sibirica* Ledeb　科名：キク科

ノコギリソウは日本・北米・東南アジアに分布する植物で、初夏の7月ごろが開花時期です。日本では本州の北部・北海道に分布し、乾燥に弱いため高度が高く湿気の多い場所を好み自生しています。葉は細長い楕円形をしており、葉の縁にはギザギザと尖った切れ込みがあります。この葉の形からノコギリソウという名前が付きました。葉の力強い印象とは反対に、白色の小さな花を咲かせるかわいい印象も持ち合わせています。

また学名の*Achillea*(アキレア)はギリシャ神話に登場する英雄アキレスが戦いの際に傷薬として使用したことが由来だと言われており、実際に薬用として利用されます。全草には抗炎症作用を有する精油成分の「シネオール」などが含まれるので、すりつぶして患部に塗ることにより、できものの治療に使われます。また強壮・健胃を目的に水で煎じて飲まれたりします。お茶代わりに飲んでみるのもよいかもしれません。

ノコギリソウの葉

生薬名	蓍草（シソウ）
薬用部位	全草
薬効	抗炎症、強壮、健胃
用途	できものの治療に用いる。 また、強壮・健胃を目的として煎じて飲む。

城西国際大学薬学部　5年生　井伊 潤也